



春にはそれぞれ新しい学年へと進級しますし、子どもたちは新たな環境、新たな役割、新たな挑戦を迎えることになりました。

中学年へつながる基盤を固める時期です。

運動場を駆け回る子どもたち
(4年タグラグビーより)

してまいります。

[illegible]

一月行事予定表

じぶんてチャレンジ大きくせん

一年

わたしは、めだまやきをつくりました。たまごはうまくできました。めだまやきをひっくりかえすときにフライパンでやけどをしました。つぎは、きをつけてやりたいです。

一年

わたしは、おふろそうじをしました。やってみて、コツをつかめば、かんたんでした。おふろそうじは、こんなたいへんなんだなとおもいました。おうちの人が、すごいね！じょうずだから、ずつとつづけていこうね！といってくれました。

一年

ぼくは、あさ、きんぎょにえさをあげました。ぼくのペットはきんぎょのきんたろうです。うんどうをしてから、あそびをします。あそびをしてから、きんたろうの水そうのそうじをしました。たいへんでした。

一年

ぼくは、つくえふきにチャレンジしました。ふきんでつくえをふきました。つくえふきは、かんたんでした。だから、もうすこしお手つだいしようとおもいました。

一年

わたしは、ごはんくばりにチャレンジしました。ごはんくばりは、かんたんだとおもったけど、おすしをくばるのがむずかしかったです。でも、がんばりました。これからもお手つだいしたいとおもいます。

一年

わたしは、ひとりでおふろチャレンジしました。おふろは、一人で入ったことはありませんでした。一人で入るとき、どきどきがいっぱいでした。でも、一人で入ってみてたのしかったです。これからは、おうちの人がしんどいときとかに、

一人で入りたいとおもいます。

二学きをふりかえて、がんばったことをかきました。

二年

わたしは、体いくのマットうんどうをがんばりました。マットうんどうでは、できないと思っていたわがができたので良かったです。

算数では、九九をおぼえるのをがんばりました。九九をはやくいえるように何かいもチャレンジしました。スラスラいえるようになるまで時間がかかりました。

図工では大玉ころがしの絵をがんばってかきました。

二年

ぼくは、うんどう会で大玉ころがしのアンカーをたのまれました。一年生の時はアンカーがありませんでした。はじめてアンカーをやったのでうれしかったです。体いくで大玉ころがしのれんしゅうをするときどきうまくなりました。さくせんをきめたり、タイムをはかったりしてたのしかったです。

かきかきつうは、たいそうがかりでした。いつも大きい声をだしてがんばりました。

二年

わたしは、算数の九九をがんばりました。九九は9のだんまおぼえました。

かきかきつうは、ロッカーでんけんをしました。帰る前にむすれものがないかかくにんして大きな声でクラスにお知らせするのをがんばりました。

音楽のけんばんハモニカは家でももって帰ってたくさんしゅうしました。

生活では、一年生のためにおもちゃをつくるのをがんばりました。おもちゃランドが楽しみです。

二年

わたしは、算数のふりかえりを書くことをが

んぱりました。

はじめは、算数のふりかえりを書くことがにが手で、なかなか書くことができなかったけれど、なれていくうちにどんな長い文が書けるようになりまし。そのときの気もちは、ふりかえりの文がとても長く書けるようになってよかったなと思っていました。今では、それが当たり前前に書けるようになってとてもうれしです。

二年

わたしは、国語の「お手紙」をがんばりました。どうしてがんばったかという、かえるくんとがまぐんの気もちを考えた、ペアでタブレットをつかって、音読のどう画をとったりできたからです。

また、かきかきつうで、五六時間目のホワイボードけしのしごとを友だちとがんばりました。友だちとしたので、めちやくちやすかりました。二学期がおわってもやりたいです。

二年

ぼくが、二学期にがんばったことはうんどう会と図工です。

うんどう会では、みんなと力を合わせてがんばりました。みんなといっしょに、ゆうしようしたからうれしかったです。三年生でもゆうしようしたいです。

図工もいろいろなものを作ったり、大玉ころがしの絵をかいたりしたのが楽しくて、すきだったのががんばりました。



人権じゅんかんになってからできたこと

三年

ぼくのクラスは切りかえをすることにしました。ぼくは、中間休みや昼休みや、昼休みが終わったすぐに切りかえをして、教室にもどってじゅんぴをするようになりました。クラスのため

にもなったのいいと思いました。クラスもかき付いて、みんな切りかえができてよかったと思います。他にも授業の切りかえにもなつて、先生が言う、タブレットを使うときと使わないときの切りかえができた、先生が話しているときは聞く、発表しているときやしゃべるときは切りかえもはやくなることができました。これからは人権じゅんかんではないときも、クラスでたくさん切りかえをしていきたいです。どれだけ切りかえることがじゅうようかを教室のみんなが知ることができたのでよかったと思います。

人権じゅん間で学んだこと

三年

わたしは、ゆずり合いを大切にすることを決めました。ゆずり合いをする、みんなと楽しく学校生活を送れると思つたからです。ゆずり合いをしている友だちを見て、わたしもゆずり合いをもつと友だちとなかを深めたいと思いました。

ほかにも、ろうかにはつてあるできたこと見つけて、みんないろいろなできたことをはつていて、わたしも自分のできたことを見つけたなと思いました。

先週は、あまりゆずり合いがでなかったのが今週はいいしきしいです。これからは、ゆずり合いがいいにも、できることをふやしたいです。

練習したらできるんだ

四年

練習の時はリコーダーを間違えずにできるか心配だったけれど、本番になつても緊張していません。サンシャイン池崎やあたりまえじゃな体操やなんでもでらうで、みんなが笑っていて少し緊張がなくなりました。

終わつてからは、うまくいってよかったなと思ひました。最初

はリコーダーがうまくなかったけど、中間休みや昼休みに



練習をしていたら、うまくなりました。たくさん練習してよかったなあと思いました。

子どもの学びと育ち亀小祭

四年

ぼくは、学びと育ちの発表会で思ったことは、今まで練習してきたおかげで良い発表会になったという事です。良い発表会になったのは、毎日コツコツいっぱいみんなやってきて、中間休みにも昼休みにも練習したりして、ケンハモとかも練習して、そのみんなの頑張りや努力が合わさってこの良い発表会になったんだと思います。

亀小祭

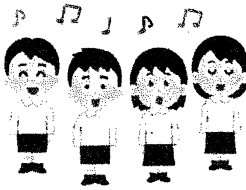
四年

僕は、子どもの学びと育ち亀小祭で感じたことが二つあります。

一つ目は、いつも以上の声を出せたことです。理由は、練習の時には声が出せていなかったたので本番の時に出せるかなと緊張していたけれど、本番になると緊張がなくなつて声を出せました。

二つ目は、リコーダーをミスせずに演奏できたことです。理由は、リコーダーの演奏も練習していたので本番でミスせずにできてよかったなと思いました。

来年の子どもの学びと育ち亀小祭を頑張りたいです。



子どもの学びと育ち亀小祭

四年

わたしは、一年生から三年生までの発表を見て、「下の学年に声やレベルが負けるかも。」と思いき、とてもきんちやうしました。でも、四年生がふだんよりも出ていて、安心しました。五、六年生は、やはりレベルが高くて、歌やセリフがすごかったです。わたしも、高学年に

なつたら、あんな事が出来るんだなと思いましたが、みんながほめてくれてうれしかったです。わたしも高学年になつたら、かっこいい発表会にしたいです。

国語「文章に説得力をもたせるには」

社会科「これからの食料生産とわたしたちの単元を学習する過程で抱いた自分の思いについて、説得力のある構成を考えながら書きました。」

五年

毎日安心して食事をするには、日本の食料自給率を上げることが大切だ。わたしは、そのためにトレーサビリティをより多くの食品に取り入れることが必要だと考える。

少し前に、母とスーパーマーケットに行った時のことだ。母に、どのような基準で食品を選んでいるのか聞いてみると、「〇〇さんの野菜」や、トレーサビリティなど、安心のできるものになるべく買うようにしているという。このように、安心や安全を求めている人のために、これからスーパーマーケットではトレーサビリティを取り入れた食品のコーナーを作つてはどうだろうか。また、トレーサビリティから国産の食料品に興味をもつたり買つたりする人が増えれば、日本の食料自給率は上がるのではないだろうか。

食糧自給率が上がれば、毎日安心して国産の食料品を使った料理を食べることができる。そのためには、トレーサビリティをより多くの食品に取り入れることが必要だ。

*「トレーサビリティ」とは、商品の生産から消費までの流通過程を追跡すること、または生産や流通過程を記録・管理するシステムのこと。

五年

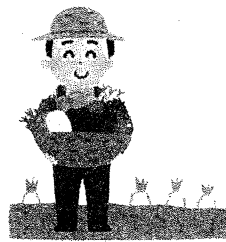
これからの日本の食料自給率を上げるためには、和食を守ることと生産量を増やすことが大

切だ。わたしはそのため、人手を増やすことと、生産量を上げることが必要だと考える。

それは、和食を守ることによって、和食の基本の米や魚が食べられ、生産量が守られることで、輸入量も減るからだ。もしわたしが生産者だつたら、自分で作った米やとった魚が食べてもらえなくなるのは悲しいし、そのせいでやめてしまったら人手が足りなくなり、生産量が減つてしまう。

和食を守つたところで人手は増えるのか、と思う人もいるかもしれない。しかし、人手を増やすためには、和食を守ることだけではない。今の時代、便利で簡単に使えるSNSというものがある。そのSNSは、日本中のたくさんの人が見ているため、SNSを使って、農業・漁業の魅力を伝えたり、イベントの告知をしたりしたら、少しでも興味をもつた人がイベントに来てくれるのではないか。例えば、アイドルだつて、イベントをするときはSNSを使って告知している。

このように、食料自給率を上げるためには、将来のために和食を守り、国内の生産量を増やしていくことが必要だ。



子どもの学びと育ち亀小祭をふり返って

六年

わたしは子どもの学びと育ち亀小祭をふり返って、学んだことがたくさんあります。

まず、私たちは「キャリア教育」という学習をしました。キャリア教育とは、自分たちの未来や将来について考える時間です。授業では、将来なつていたい自分について交流しました。友達と交流していく中で、友達の将来が少しずつ見えていくような感じがして、とてもワクワクしま

した。

次に、キャリア教育をもとに「未来」という詩を作りました。担当分けをして、セリフ練習をしていくと良いセリフばかりで自分たちが平和な社会を作つていくんだ！という気持ちになりました。詩の中に「自分も周りも同じくらい大切にしたい」というセリフがあり、これからこの言葉を大切に未来に進んでいきたいなと思いました。

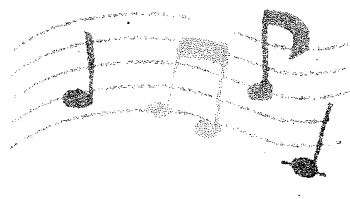
この子どもの学びと育ち亀小祭で、今を大切に一生懸命生きようと思うことができました。また、「HEIWAの鐘」を歌い、平和の大切さも歌詞から学ぶことができました。平和な世の中を作るためにはどうすれば良いのか、これからたくさん学習したいと思います。

六年

私は、子どもの学びと育ち亀小祭で学んだことが二つあります。

一つ目は、たくさん努力することです。発表に向けての練習が始まった時、たくさんの先生方からたくさんアドバイスをもらいました。改善するべき所が多すぎて、「本番失敗したらどうしよう」と不安な気持ちが強くなりました。でも、家で毎日毎日練習しました。そして、歌のクレシンドやサビの部分の練習を何度もしました。すると、最初は不安でいっぱいだった気持ちが楽しいという気持ちに変わっていききました。努力することの大切さを学んだ瞬間でした。

二つ目は、協力することの大切さを学びました。今回の発表では、クラスや学年で声を合わせて揃えないといけない場面がたくさんありました。最初は声も全然揃ってなくてバラバラだったけど、これも協力とみん



なつていくのが分かりました。また、ハキハキと
いうことを意識して練習する時も、一緒に練習
している仲間と頑張りやコツを意識して練習す
ると上手に言えるようになりました。そういう
意味でも、仲間との協力は大切だと感じました。
今回の経験を通して気付くことができた二つ
の学びを、ここで終わらすことなくこれからも
継続していきたいです。そして、たくさんのアド
バイスをくださった先生方への感謝の気持ちも
忘れずに過ごしていきたいです。

六年

ばくは、学びと育ち亀小祭でたくさんさんの練習
や準備をしてきました。練習では、「HEIWA
の鐘」や詩の群読を一生懸命練習しました。そ
の中でも一番頑張ったのは、歌です。最初は、歌
詞をみながら歌っていたけれど、練習を重ねる
たびに歌詞を覚えていつて見なくても歌える自
信ができました。また、詩の群読では、最初は
はずかしくてあまり大きな声が出なかったり、言
うことを忘れてしまったりすることがありました。
それでもめげずに自分なりに毎日帰って練習を
して、大きな声が出るようになりました。そ
のとき思ったことは、「自分が言っていることは
はずかしくない」ということです。そう考える
ことで、自信がついて本番は大きな声で全校に
伝えることができました。

今回の学びと育ち亀小祭から、どんなことで
も積み重ねることが大事だと言うことや、これ
からもチャレンジすることは大切にしたいという
思いが生まれました。また、これまで一緒に練習
してくださった先生方に感謝をしたいです。平
和学習で得た力もこの先の生活で活かしてい
たいと思いました。

最高学年へ向けて

五年担任

五年生にとつての三学期は、一年間のまとめの
時期であると同時に、六年生、最高学年への準
備の時期でもあります。残り三ヶ月を充実した
ものにするために、これまでの成長と課題をふ
り返ります。

春、「Action」活発・発見・発信」を
学年目標に始まった五年生。これから新たな学
習や行事を経験する中で、自ら活発に行動し様々
な発見をして欲しい、またそれを周囲へ発信で
きる力を育てて欲しい、ということ子ども達に
伝えました。

成長したところ、まずは一学期の野外学習で
す。一泊二日を自分達だけで過ごすために、実
行委員、班長、食卓長、活動長、生活長に分か
れて活動しました。子ども達の最も成長した点
は、責任をもち、自分の役割を果たすことがで
きたことです。レクレーションを考えたり、準備
や運営を行う姿。カッター訓練で心をひとつに
するために大きな声を出したり、船を進めるた
めに一生懸命にオールを漕ぐ姿。キャンプファイ
ヤーを盛り上げるために、何度も話し合い活動
内容を練り合ったり、台詞を覚えたりする姿。一
人一人が活動を成功させるために、自分のでき
ることを必死にやり切る姿が見られたことに彼
らの成長を感じました。

二学期は、運動会と陸上交歓記録会、そして
学びと育ち亀小祭です。一生懸命やることは素
晴らしいということを実感し、行動で示せる子
が増えました。「ハカ」のパフォーマンスで、人
前で大きな声を出し出す姿。クラス一丸とな
り、必死に棒を取りに行く姿。徒競走で、最後
の最後まで全力を出し切り走り抜く姿。自分の
担当する楽器が演奏できるように、休み時間
にも練習する姿。気持ちよく居られるように、大
きく口を開き、表情豊かに歌う姿。多くの行事
を経験し、目の前にある課題に直向きに取り組
めるようになってきたと感じています。

一方で課題もあります。自分で正しい判断を
して、正しい行動を取ることです。学校や社会
の規則や礼儀を本当は分かっているけれども、守

り切れない弱さが見られます。下校中や放課後
などの大人の目が届かない場面で正しい行動が
取れなかったり、トラブルになったりしたことが
ありました。「今どうしなければならぬか」と
いうことは、頭では理解しているのでしょうか。
しかし、友達もやっているから、別に誰も見ていな
いから、という甘い気持ちで心の片隅にあるの
だろうと思います。周囲に流されることなく、自
分で正しい判断をして正しい行動が取れる人間
になつてほしいと願っています。

三学期には、六年生を送る会があります。五
年生が中心になり、企画、準備、運営を進めて
いきます。今までに身に付けた力を発信する機
会であり、課題を改善する機会でもあります。自
分の限界を決めてしまうのではなく、更に自分
の力を高めるために、積極的に行動（Action）
を起こして、成長した頼もしい姿を見られ
ることを楽しみにしています。

子どもの気持ちに寄り添って

生徒指導部

ほめてほしかった

きょうは あさはやくから

べんきょうをした。

みんな やった。

これは きっと ほめられると

おもった。

どんなに ほめられるのかなあと

おもった。

ほめられたら いいのになあと

おもった。

にこにこして、おかあさんに

見せたら

おかあさんは、ほめてくれたかった。

「土よう日の ぶんも しなさい。」と

はんたいに おこった。

わたしはなきました。

— 高知県こども詩集 やまもも

第一〇集（一九八六年）より —

これは今から四十年近く前に、高知県の一年
生が作った詩です。お母さんに「ほめられると
いいな」というわくわくした気持ちで、「ほめて
ほしかったの」という素直な気持ちが伝わって
きます。これが書かれた頃からはだいたい月日が
流れましたが、「ほめてもらいたい」という子ど
も達の気持ちは変わっていないように思います。
自分自身の我が子への関わりをふり返ると、忙
しさが適度にあしらったり、つい他の兄弟
と比べてしまったり、反省することばかりです。
この詩を書いた子のお母さんも、このことにつ
いてきつと何か思うところがあつて、この詩を出品
することを許可されたのかもしれないなどと勝
手に想像しています。

